



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年2月1日

上場取引所 大

上場会社名 攝津製油株式会社

コード番号 2611 URL <http://www.settsu-seiyu.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) ニノ宮 義治

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 山本 信秀

TEL 072-280-2650

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	7,203	△3.1	302	△8.7	312	△8.1	178	0.4
24年3月期第3四半期	7,431	2.3	331	2.2	340	3.0	177	△4.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	14.63	—
24年3月期第3四半期	14.56	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	6,498	3,609	55.5	295.77
24年3月期	6,180	3,475	56.2	284.73

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 3,609百万円 24年3月期 3,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年 3月期の業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,400	△2.5	320	△10.4	330	△10.5	190	△1.0	15.57

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(その他)」に関する事項(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	12,222,080 株	24年3月期	12,222,080 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	17,654 株	24年3月期	16,842 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	12,204,882 株	24年3月期3Q	12,205,467 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.3「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に緩やかに回復しつつあるものの、内外の景気の先行きは依然として厳しい状況で推移しました。12月に誕生した新政権による経済政策への期待感から、為替や株式市場には変化の兆しが見られますが、実体経済への影響等については、まだ不透明な状況が続いております。

こうした経済環境のなかで当社は、化成品事業における安定的な事業収益を生み出す事業構造変革への取組み、油脂事業における適正な利益を確保できる体制の構築に注力し、さらに、工場におけるコスト競争力・購買力・生産技術力及び品質保証体制の強化などの経営基盤の安定・強化に引き続き取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期としては、前年同期並の売上・利益であったものの、当第3四半期累計期間の売上高は72億3百万円（前年同期比3.1%減）、営業利益は3億2百万円（前年同期比8.7%減）、経常利益は3億12百万円（前年同期比8.1%減）、四半期純利益は1億78百万円（前年同期比0.4%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(油脂事業)

当社の油脂事業は、精製受託、業務用斗缶販売、小瓶充填・小ロット精製から構成されています。

精製受託は、前年同期は東日本大震災直後の東日本向けへの需要の増加により、一時的に増加していました。当第3四半期累計期間は、前年同期の一時的要因は消失したものの、新たな受託先を獲得したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

業務用斗缶は、原材料価格の高騰をうけ、可能な限り製品価格の是正に努めたものの、販売数量は減少し、売上高も前年同期を下回りました。

小瓶充填・小ロット精製は、有機油やぶどう油などの自社プレミアムオイルは前年並となりましたが、OEM品が増加し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、油脂事業の売上高は35億91百万円で前年同期比5.9%減となりました。セグメント利益は2億22百万円で前年同期比9.2%増となりました。

(化成品事業)

当社の化成品事業は、自社業務品、OEM及び業務提携先OEMから構成されています。

自社業務品は、外食店、食品加工工場向けに中性洗剤、厨房機器用洗剤や殺菌洗剤の拡販を行ってまいりました。当第3四半期においては、ノロウイルス関連商品が少しずつながら売上が増加しました。当第3四半期累計期間では、前期第4四半期より本格化し始めた新規有力店への順調な販売及び大手外食チェーン、食品加工工場への除菌剤の販売増加等が寄与したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

OEMは、会員販売・通信販売向け製品の受託は好調に推移したものの、既存の量販店や生協向けのハウスホールド製品の受託は前年同期より減少し、売上高は前年同期を下回りました。

業務提携先OEMは、ケミカル関連商品の受託は減少しましたが、業務用関連商品及び家庭用自動食器洗浄機用洗剤の受託は好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、化成品事業の売上高は33億18百万円で前年同期比1.0%増となりました。セグメント利益は4億85百万円で前年同期比1.4%減となりました。

(その他)

その他については、物流業務における流通加工業務が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、その他の売上高は2億94百万円で前年同期比11.1%減となりました。セグメント利益は1億21百万円で前年同期比17.3%減となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の総資産合計は、64億98百万円となり、前事業年度末に比べ3億17百万円増加しました。

主な内容は、流動資産につきましては、売掛金・棚卸資産等が増加したことなどにより3億81百万円増加し、固定資産につきましては、減価償却が進んだことなどにより64百万円減少したことによるものであります。

負債合計につきましては、28億88百万円となり、前事業年度末に比べ買掛金等が増加したことにより、1億83百万円の増加となりました。

純資産合計につきましては、36億9百万円となり、前事業年度末に比べ利益剰余金等が増加したことにより、1億34百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、55.5%となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、平成24年10月30日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32	32
受取手形及び売掛金	2,194	2,392
有価証券	0	0
商品及び製品	215	270
原材料及び貯蔵品	106	138
短期貸付金	193	269
その他	63	81
流動資産合計	2,805	3,187
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	818	782
機械及び装置（純額）	192	187
土地	1,919	1,919
その他（純額）	161	149
有形固定資産合計	3,090	3,038
無形固定資産	54	39
投資その他の資産	229	233
固定資産合計	3,375	3,311
資産合計	6,180	6,498
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,398	1,571
未払金	687	734
未払法人税等	68	51
未払消費税等	30	23
引当金	61	32
その他	46	49
流動負債合計	2,291	2,462
固定負債		
退職給付引当金	316	330
役員退職慰労引当金	38	45
その他	59	50
固定負債合計	413	425
負債合計	2,705	2,888

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,299	1,299
資本剰余金	1,165	1,165
利益剰余金	1,001	1,130
自己株式	△5	△6
株主資本合計	3,459	3,589
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15	20
評価・換算差額等合計	15	20
純資産合計	3,475	3,609
負債純資産合計	6,180	6,498

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	7,431	7,203
売上原価	6,365	6,164
売上総利益	1,065	1,038
販売費及び一般管理費	734	736
営業利益	331	302
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	4
仕入割引	2	2
受取地代家賃	1	2
その他	1	1
営業外収益合計	10	10
営業外費用		
支払利息	0	0
売上割引	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	1	0
経常利益	340	312
特別損失		
固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	14	3
特別損失合計	14	3
税引前四半期純利益	326	309
法人税、住民税及び事業税	105	120
法人税等調整額	43	10
法人税等合計	148	130
四半期純利益	177	178

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報

I 前第3四半期累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,815	3,285	7,100	330	7,431
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,815	3,285	7,100	330	7,431
セグメント利益	203	491	695	146	842

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	695
「その他」の区分の利益	146
全社費用	△510
四半期損益計算書の営業利益	331

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,591	3,318	6,909	294	7,203
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,591	3,318	6,909	294	7,203
セグメント利益	222	485	707	121	828

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	707
「その他」の区分の利益	121
全社費用	△526
四半期損益計算書の営業利益	302

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。